

外 国 語

1 学習指導要領改訂の趣旨

平成28年12月の中央教育審議会答申を踏まえ、外国語教育を通じて育成を目指す資質・能力全体を貫く軸として、特に、他者とのコミュニケーションの基盤を形成する観点を重視しつつ、他の側面（創造的思考、感性・情緒等）からも育成を目指す資質・能力が明確となるよう整理した。このため、外国語の目標として、外国語教育の特質に応じた「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」の言語活動を通して情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図るために必要な「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を更に育成することを目指して改善を図った。

2 改訂の内容

(1) 教科の目標の改善

各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から外国語科の目標の改善・充実を図った。

【外国語科の目標】		
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>

(2) 科目の改善

ア 科目構成

改 訂		現 行	
科 目 名	標 準 単 位 数	科 目 名	標 準 単 位 数
英語コミュニケーションⅠ	3	コミュニケーション英語基礎	2
英語コミュニケーションⅡ	4	コミュニケーション英語Ⅰ	3
英語コミュニケーションⅢ	4	コミュニケーション英語Ⅱ	4
論理・表現Ⅰ	2	コミュニケーション英語Ⅲ	4
論理・表現Ⅱ	2	英語表現Ⅰ	2
論理・表現Ⅲ	2	英語表現Ⅱ	4
		英語会話	2

・必履修科目は「英語コミュニケーションⅠ」。

中学校における学習を踏まえた上で、※5つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の5つの領域を総合的に扱う科目（「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「英語コミュニケーションⅢ」）及び「話すこと」、「書くこと」を中心とした発信力の強化を図る科目（「論理・表現Ⅰ」、「論理・表現Ⅱ」、「論理・表現Ⅲ」）の計6科目構成とした。

※「5つの領域」とは

C E F R（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）においては、これまでの「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能ではなく、「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り：interaction]」「話すこと[発表：production]」「書くこと」という5つの領域において、知識・技能だけが示されているのではなく、知識・技能を活用して思考したり表現したりする言語能力が示されていることから、今回の改訂において、外国語科において育成を目指す資質・能力を、5つの領域により整理した。

イ 各科目の特徴

<英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ>

【英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲの目標】

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの5つの領域（以下この節において「5つの領域」という。）別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「外国語科の目標」の「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「外国語科の目標」の「学びに向かう力・人間性等」に示す資質・能力を育成する。

- ・「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」及び「英語コミュニケーションⅢ」（以下「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」という。）は、5つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成する科目であり、科目の段階がⅠからⅢに上がるにつれて、5つの領域の統合的な指導を発展的に行う科目である。
- ・また、高等学校の外国語科では、どの科目においても「日常的な話題」及び「社会的な話題」を扱うこととしているため、「5つの領域」、「日常的な話題」及び「社会的な話題」について、「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の段階別に各科目の目標及び内容を示す。

科目の段階がⅠからⅢへと上がるにつれて、生徒がより少ない支援で自律的に、言語活動における課題を遂行する力を育成する。

(ア) 各領域における目標

領域	話題	英語コミュニケーションⅠ 「多くの支援を活用すれば」	英語コミュニケーションⅡ 「一定の支援を活用すれば」	英語コミュニケーションⅢ 「支援をほとんど活用しなくても」
聞くこと	日常的	話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。	話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。	話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。
	社会的	話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。	話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。	話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。
読むこと	日常的	使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。	使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。	使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。
	社会的	使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。	使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。	使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。
話すこと（やり取り）	日常的	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようにする。
	社会的	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝え合うことができるようにする。	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。
話すこと（発表）	日常的	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。
	社会的	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。
書くこと	日常的	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論

		きるようにする。	理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。
社会的	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、 基本的な語句や文 を用いて、情報や考え、気持ちなどを 論理性に注意して文章を書いて伝える ことができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、 多様な語句や文 を用いて、情報や考え、気持ちなどを 論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝える ことができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、 多様な語句や文 を 目的や場面、状況などに応じて適切に用いて 、情報や考え、気持ちなどを 複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝える ことができるようにする。

(イ) 各領域における内容（言語活動）※下線部は統合的な言語活動

領域	話題	英語コミュニケーションⅠ 「多くの支援を活用すれば」	英語コミュニケーションⅡ 「一定の支援を活用すれば」	英語コミュニケーションⅢ 「支援をほとんど活用しなくても」
聞くこと	日常的	話される速さが調整されたり、 基本的な語句や文での言い換え を十分に聞いたりしながら、 対話や放送 などから必要な情報を聞き取り、 話し手の意図を把握 する活動。また、 聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動 。	必要に応じて、話される速さが調整されたり、 別の語句や文での言い換え を聞いたりしながら、 対話やスピーチ などから必要な情報を聞き取り、 話の展開や話し手の意図を把握 する活動。また、 聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動 。	インタビューやニュース などから必要な情報を聞き取り、 話の展開や話し手の意図を把握 する活動。また、 聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動 。
	社会的	話される速さが調整されたり、 基本的な語句や文での言い換え を十分に聞いたりしながら、 対話や説明 などから必要な情報を聞き取り、 概要や要点を把握 する活動。また、 聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動 。	必要に応じて、話される速さが調整されたり、 別の語句や文での言い換え を聞いたりしながら、 説明や討論 などから必要な情報を聞き取り、 概要や要点、詳細を把握 する活動。また、 聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動 。	複数の ニュースや講演 などから 話の展開に注意 しながら必要な情報を聞き取り、 概要や要点、詳細を把握 する活動。また、 聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動 。
読むこと	日常的	基本的な語句や文での言い換え や、書かれている 文章の背景に関する説明 などを十分に聞いたり読んだりしながら、 電子メールやパンフレット などから必要な情報を聞き取り、 書き手の意図を把握 する活動。また、 読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動 。	必要に応じて、 別の語句や文での言い換え や、書かれている 文章の背景に関する説明 などを聞いたり読んだりしながら、 新聞記事や広告 などから必要な情報を聞き取り、 文章の展開や書き手の意図を把握 する活動。また、 読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動 。	新聞記事や物語 などから必要な情報を聞き取り、 文章の展開や書き手の意図を把握 する活動。また、 読み取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動 。
	社会的	基本的な語句や文での言い換え や、書かれている 文章の背景に関する説明 などを十分に聞いたり読んだりしながら、 説明文や論証文 などから必要な情報を聞き取り、 概要や要点を把握 する活動。また、 読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動 。	必要に応じて、 別の語句や文での言い換え や、書かれている 文章の背景に関する説明 などを聞いたり読んだりしながら、 論証文や報告文 などから必要な情報を聞き取り、 概要や要点、詳細を把握 する活動。また、 読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動 。	複数の 論証文や記録文 などから 文章の展開に注意 しながら 課題を解決するために必要な情報 を読み取り、 概要や要点、詳細をまとめる 活動。また、 まとめた内容を基に解決策を考え、話したり書いたりして伝え合う活動 。
話すこと（やり取り）	日常的	身近な出来事や家庭生活 などの日常的话题について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、情報や考え、気持ちなどを 即興で話して伝え合う活動 。また、 やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動 。	関心のある事柄や学校生活 などの日常的话题について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、情報や考え、気持ちなどを 詳しく話して伝え合う活動 。また、 やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動 。	学校外での生活や地域社会 などの日常的话题について、情報や考え、気持ちなどを 詳しく話して伝え合い、会話を発展させる 活動。また、 やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動 。
	社会的	使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、 対話や説明 などを聞いたり読んだりして、 賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝え合う活動 。また、 やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動 。	必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、 説明や討論 などを聞いたり読んだりして、 賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う活動 。また、 やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動 。	ニュースや講演 などを聞いたり読んだりして、 情報や考え、課題の解決策などを明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う活動 。また、 やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動 。
話すこと（発表）	日常的	身近な出来事や家庭生活 などの日常的话题について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを 理由や根拠とともに話して伝える 活動。また、 発表した内容について、質疑応答を	関心のある事柄や学校生活 などの日常的话题について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、 情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく話して伝える 活動。また、 発表した内容につい	学校外での生活や地域社会 などの日常的话题について、情報や考え、気持ちなどを、 明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝える 活動。また、 発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動 。

		したり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	て、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	
社会的		使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、説明や討論などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを、明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。
書くこと	日常的	身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、明確な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。
	社会的	使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、説明や討論などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを、自分自身の立場を明らかにしながら、明確な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

<論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ>

【論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの目標】

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの3つの領域（以下この節において「3つの領域」という。）別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「外国語科の目標」の「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「外国語科の目標」の「学びに向かう力・人間性等」に示す資質・能力を育成する。

- ・「論理・表現Ⅰ」、「論理・表現Ⅱ」及び「論理・表現Ⅲ」（以下「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」という。）は、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の3つの領域を中心に、目的や場面、状況に応じた論理の構成や展開、情報や考えなどを効果的に伝える表現などの知識を活用しながら、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、まとまりのある文章を書くことなどを通して、英語を話したり書いたりすることによる発信力を高めることを目指す科目であり、科目の段階がⅠからⅢに上がるにつれて、上記の3つの領域を中心とした発信力を強化するための指導を発展的に行う科目である。
- ・また、高等学校の外国語科では、どの科目においても「日常的な話題」及び「社会的な話題」を扱うこととしているため、「3つの領域」、「日常的な話題」及び「社会的な話題」について、「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の段階別に各科目の目標及び内容を示す。

科目の段階がⅠからⅢへと上がるにつれて、生徒がより少ない支援で自律的に、言語活動における課題を遂行する力を育成する。

(ア) 各領域における目標

領域	話題	論理・表現Ⅰ	論理・表現Ⅱ	論理・表現Ⅲ
		「多くの支援を活用すれば」	「一定の支援を活用すれば」	「支援をほとんど活用しなくても」
話すこと (やり取り)	日常的	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、 基本的な語句や文 を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して 伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たり することができるようにする。	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、 多様な語句や文 を用いて、情報や考え、気持ちなどを 詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したり することができるようにする。	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、 複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに 応じて適切に用いて、課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して話して 伝え合う ことができるようにする。
	日常的／社会的	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、 ディベートやディスカッション などの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、 基本的な語句や文 を用いて、意見や主張などを 論理の構成や展開を工夫して話して伝え合う ことができるようにする。	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、 ディベートやディスカッション などの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、 多様な語句や文 を用いて、意見や主張、課題の解決策などを 論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合う ことができるようにする。	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、 ディベートやディスカッション などの活動を通して、 複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに 応じて適切に用いて、意見や主張、課題の解決策などを、聞き手を説得できるよう、 論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合う ことができるようにする。
話すこと (発表)	日常的	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、 基本的な語句や文 を用いて、情報や考え、気持ちなどを 論理の構成や展開を工夫して話して伝える ことができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、 多様な語句や文 を用いて、情報や考え、気持ちなどを 論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝える ことができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、 多様な語句や文を目的や場面、状況などに 応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、聞き手を説得できるよう、 論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝える ことができるようにする。
	日常的／社会的	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、 スピーチやプレゼンテーション などの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、 基本的な語句や文 を用いて、意見や主張などを 論理の構成や展開を工夫して話して伝える ことができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、 スピーチやプレゼンテーション などの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、 多様な語句や文 を用いて、意見や主張などを 論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝える ことができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、 スピーチやプレゼンテーション などの活動を通して、 複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに 応じて適切に用いて、意見や主張などを、聞き手を説得できるよう、 論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝える ことができるようにする。
書くこと	日常的	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、 基本的な語句や文 を用いて、情報や考え、気持ちなどを 論理の構成や展開を工夫して伝える文章を書いて伝える ことができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、 多様な語句や文 を用いて、情報や考え、気持ちなどを 論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝える ことができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、 多様な語句や文を目的や場面、状況などに 応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を説得できるよう、 論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝える ことができるようにする。
	日常的／社会的	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、 基本的な語句や文 を用いて、意見や主張などを 論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝える ことができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、 多様な語句や文 を用いて、意見や主張などを 論理の構成や展開を工夫して詳しく伝える複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝える ことができるようにする。	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、 複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに 応じて適切に用いて、意見や主張などを、読み手を説得できるよう、 論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝える ことができるようにする。

(イ) 各領域における内容（言語活動）※下線部は統合的な言語活動

領域	話題	論理・表現Ⅰ 「多くの支援を活用すれば」	論理・表現Ⅱ 「一定の支援を活用すれば」	論理・表現Ⅲ 「支援をほとんど活用しなくても」
話すこと （やり取り）	日常的	関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりする活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。	学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え合ったり、自分自身の状況や要望を伝え、相手の意向を把握しながら交渉したりする活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。	日常的な話題について、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、情報や考え、気持ちなどを整理して伝え合ったり、課題を解決するために話し合ったりする活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。
	日常的／社会的	日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、優れている点や改善すべき点を伝え合ったり、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。	日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、課題を明確に説明し、その解決策を提案し合ったり、意見や主張、課題の解決策などを適切な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。	日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、質疑応答をしたり、聞き手を説得することができるよう、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、意見や主張、課題の解決策などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを、整理して発表したり、文章を書いたりする活動。
話すこと （発表）	日常的	関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに詳しく伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	日常的な話題について、聞き手を説得することができるよう、情報や考え、気持ちなどを、効果的な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。
	日常的／社会的	日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝える短いスピーチやプレゼンテーションをする活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに詳しく伝えるスピーチやプレゼンテーションをする活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	日常的な話題や社会的な話題について、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、段階的な手順を踏みながら、聞き手を説得することができるよう、意見や主張などを、効果的な理由や根拠とともに詳しく伝えるまとまりのある長さのスピーチやプレゼンテーションをする活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。
書くこと	日常的	関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに伝える段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	日常的な話題について、読み手を説得することができるよう、情報や考え、気持ちなどを、効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。
	日常的／	日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のた	日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、	日常的な話題や社会的な話題について、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、発想から推敲まで段階的な手順を踏みなが

社会的	めの多くの時間が確保されたりする状況で、発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝える段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。	ら、読み手を説得することができるよう、意見や主張などを、効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。
-----	--	--	--

3 質疑応答

問1 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とはどのようなものか。

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方のことである。

外国語で他者とコミュニケーションを行うには、社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解したりするなどして相手に十分配慮することが重要である。生徒の発達の段階に応じて「見方・考え方」を確かめ豊かなものとする中で、学ぶことの意味と自分の生活、人生や社会、世界の在り方を主体的に結び付ける学びが実施され、学校で学ぶ内容が生きて働く力として育まれることになる。

問2 今回の改訂における各領域別の目標にある「支援」とはどのようなものか。

今回の改訂においては、各科目の領域別の目標の中に、それぞれの言語活動における支援について明記されている。言語活動においては、生徒が英語を理解したり英語で発信したりする状況を教師が把握する中で、課題の遂行に当たって生徒が自分の力で対処できるか、どのような支援があれば課題を遂行できるかなどを教師が考慮し、生徒に学習上の様々な配慮を行うことが必要である。

言語活動を行う際の支援は様々なものがあるが、ここでは「英語コミュニケーション I」での5つの領域における支援の例を紹介する。

領域	支援の例
聞くこと	<p>【話される速さにおける支援】 生徒の実態に合わせて話す速度を調整したり、理解する上で重要な情報を強調して発音したり、生徒が意味の処理に十分な時間を確保したりできるよう、文と文の間を長めに区切りを入れたりすること など</p> <p>【使用される語句や文における支援】 聞き取る情報の中で使用される語句や文のうち、理解が難しいと思われる語句や表現を、簡単な表現や既習の表現に言い換えること など</p> <p>【情報量における支援】 始めのうちは比較的少量の情報に分けて伝えたり、聞き取る視点を変えながら情報の全体を何度も繰り返し聞いたりすること など</p> <p>【その他の支援】 聞き取る情報を繰り返したり、聞き取る内容と関連のあるイラスト、写真、映像などの視覚情報を与えたりすること など</p>
読むこと	<p>【使用される語句や文における支援】 読み取る必要のある語句や文のうち、理解が難しいと思われる語彙や表現を、簡単な表現や既習</p>

	<p>の表現に言い換えること など</p> <p>【情報量における支援】 始めのうちは比較的少量の情報に分けて読ませることで、読むことの負担を軽減すること など</p> <p>【その他の支援】 取り上げた話題の背景について説明したり、図表などを活用して文章の概要の理解を助けたり、読む内容と関連のあるイラスト、写真、映像などの視覚情報を与えたりすること など</p>
話すこと (やり取り)	<p>【使用する語句や文における支援】 やり取りにおいて有用な語句や文を示すこと など ※使用する語彙や表現を限定してしまい、それらを正確に使うことを目標とするような練習にならないよう留意する必要がある。</p> <p>【対話の展開における支援】 会話の展開の仕方や、会話がうまく続けられないときの対処法を提示すること など</p> <p>【その他の支援】 ティーム・ティーチングで教師同士のやり取りや、モデルとなる生徒同士のやり取りを見せたり、ペアを何度も変えてやり取りを続けることで、やり取りに慣れさせたりすること など</p>
話すこと (発表)	<p>【使用する語句や文における支援】 生徒が発表をする際に有用な語句や文を提示すること など</p> <p>【事前の準備における支援】 発表する内容について事前にペアやグループで話し合ったり、発表のアウトラインや発表用のメモを書いたりすること。また、そのような活動をするための時間を十分確保すること など</p> <p>【その他の支援】 発表の際に写真や映像、実物などの視覚的な補助の活用したり、発表の形態を段階的（ペアでの発表から小グループでの発表を経て、クラス全体で発表する。）にして発表の負担を軽減させたりすること など</p>
書くこと	<p>【使用する語句や文における支援】 まとまった文章を書く際に有用な語句や文を提示すること など</p> <p>【事前の準備における支援】 書く内容についてペアやグループで事前に話し合ったり、伝えようとする内容のアウトラインを書いたりすること。また、そのような活動をするための時間を十分確保すること など</p>

4 新学習指導要領を踏まえた現行学習指導要領における実践

(1) 現状の分析等（「北海道高等学校学力向上実践事業」学力テスト）の分析

各学校において、義務教育段階での学習内容の確実な定着及び4技能を総合的に育成する指導の充実が図られており、Bモデルの「話すこと」において、正答率が3.4ポイント下降しているが、それ以外の全ての領域において、正答率は上昇している。

一方で、学力テスト全体として、「聞くこと」及び「読むこと」に比べ、「書くこと」及び「話すこと」の正答率が低い状況にある。特に、Cモデルの「書くこと」における無回答率は9.1%と、平成28年度に比べて4.8ポイント下降し、改善されているものの、依然として高い状態が続いている。

現行の学習指導要領における改善の基本方針を踏まえ、コミュニケーションの中で自らの考えなどについて内容的にまとまりのある発信ができるようにすることを目指し、4技能の言語活動の統合を図るような授業改善の一層の充実が求められる。

【過去3年の正答率の推移】

< Cモデル >

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
聞くこと	77.4%	76.2%	77.9%
読むこと	60.4%	59.0%	64.2%
書くこと	25.3%	46.1%	46.8%

< Bモデル >

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
聞くこと	70.0%	70.9%	71.0%
読むこと	50.6%	55.9%	56.0%
書くこと	3.1%	6.5%	9.2%
話すこと	26.5%	13.7%	10.3%

< Aモデル >

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
聞くこと	59.4%	51.7%	55.5%
書くこと	15.6%	20.1%	21.3%

特に、Cモデルを採用する学校における「書くこと」の無回答率が高いことから、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図り、英語に対する苦手意識を解消させることが求められる。実際の指導においては、英語を学び、使うことに興味を抱かせるために、英語を使った活動を豊富に体験させ、主体的な学習習慣が育つよう配慮するとともに、中学校における基礎的な学習内容を整理して指導し定着を図ることが重要である。

<「書くこと」無回答率>

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
Cモデル	11.8%	13.9%	9.1%
Bモデル	26.2%	6.4%	6.2%
Aモデル	6.5%	4.1%	3.8%

例えば、自分の考えや気持ちなどを理由や根拠を例示して伝えることを、毎時間の授業の開始時に継続的に行うほか、生徒の習熟の程度に応じた表現を用いるよう促したり、適切な分量を設定したりするなどの配慮をして、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く言語活動の充実を図る必要がある。

(2) 実践例

新学習指導要領では、5つの領域別の言語活動及び複数の領域を効果的に関連付けた統合的な言語活動を通して、5つの領域を統合的に育成する科目（「英語コミュニケーション」）、及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を取り入れながらも、発信に係る3つの領域別の言語活動を重点的に行う科目（「論理・表現」）を新たに設定した。ここでは、「話すこと[やり取り]」又は「話すこと[発表]」の領域別の言語活動に係る事例及び複数の領域を統合的に育成する実践事例を紹介する。

実践事例①

生きて働く「知識・技能」の習得や思考力・判断力・表現力等の段階的な育成を図る「ディベート」の実践例

英語での議論を通じて、教科書などで学習した内容について理解を深めるとともに、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝え合うことで、思考力・判断力・表現力等を身に付ける実践事例を紹介する。

目標：基本的な語句や文のモデルなど、多くの支援を活用すれば、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して英語で伝え合うことができる。

1 スピーチをする練習【話すこと[発表]】

ディベートを楽しむ最初のステップとして、ペアで肯定側・否定側を決めた後、次のような Speech Script（型）を用いて原稿を作成し、1分程度の長さの英語を話す練習をする。

肯定側の構成	Speech Script [Affirmative : 肯定側]
①肯定する論題を提示	Hello, everyone. Today, I want to argue that [論題]. I think [論題] is good.
②スピーチの構成の提示	I have one reason to support my opinion.
③サインポスト（簡単な理由）	The reason is [理由を簡単に名詞の形で]. Let me explain.
④現状の悪いこと	When we (動詞) [論題], many of us suffer from [現状の悪いこと]. For example, [具体例].
⑤メリット	If there is no [論題], it will get much [それがなぜ良いのか].
⑥重要性	Why is this point important? This is because [それがどれくらい重要なのか].
⑦スピーチ終了	For this reason, I think we should [論題]. That's all. Thank you.
否定側の構成	Speech Script [Negative : 否定側]
①否定する論題を提示	Hello, everyone. Today, I want to argue that [論題]. I think [論題] is bad.

②スピーチの構成の提示	I have one reason to support my opinion.
③サインポスト（簡単な理由）	The reason is [理由を簡単に名詞の形で]. Let me explain.
④現状の良いこと	Under the current situation, we see [現状の良いこと]. For example, [具体例].
⑤デメリット	However, if we introduce this, we will [それがなぜ良くないのか].
⑥深刻さ	This is a serious problem because [それがどれくらい深刻な問題なのか].
⑦スピーチ終了	For this reason, we should not [論題]. That's all. Thank you.

ディベートでは、主張（Assertion）に根拠（Support）を加えることで聴衆を説得する。根拠には論証（Reasoning）と証拠（Evidence）という2つの要素が含まれる。生徒の実態に応じて、段階的に「議論（Argument）＝主張＋（論証＋証拠）」を意識してスピーチの原稿を書いたり、話したりする練習をすることに留意する必要がある。

2 質問をする練習【話すこと[やり取り]】

誰かのスピーチを聞いた後、質疑応答（1分程度）を行う。この活動を通して即興で英語を話す力が身に付く。次に挙げるのは、質問で活用する表現の例である。

頻度・時間・数：	How often do you ~? / When did you do that? / How many ~ do you...?
具 体 化：	Could you give me some example? / What do you mean by saying ~? / Who / what is ~?
理 由：	Why do you think so?

3 アタック（相手の議論の問題点（弱点）への指摘）【話すこと[やり取り]】

質問をした後、次の反論の型を参考に、相手の議論の問題点を指摘する活動をする。この活動を通じて、論理的・批判的な思考力が身に付く。必要に応じて、質問前の準備時間（1分程度）設定する。

You said [相手の意見], but it's [not (always) true / special / likely to happen / important / relevant] because [理由]. That's all. Thank you.

4 ディフェンス（反論への立て直し）【話すこと[やり取り]】

相手からのアタックの後、次の型を参考に自らの主張を立て直す。必要に応じて準備時間を設定する。

Let me reconstruct our argument. They refuted our argument by saying that [相手のAttack]. However, it is not [(always) true / special / likely to happen / important / relevant] because [反論への立て直し]. Therefore, our argument still stands. Thank you.
--

5 ディベートの試合（Simplified Debate）【話すこと[発表][やり取り]】

ディベートには様々な型があるが、一例として、10分程度で授業の帯活動としても実施できる簡易的なディベートを紹介する。

<ul style="list-style-type: none"> 参加人数：9～10名 ※1チーム3人×2チーム、ジャッジ3～4名程度 役割分担：肯定側（①生徒A③生徒B⑤生徒C） 否定側（②生徒D④生徒E⑥生徒F） 所要時間：準備10分程度＋試合時間6～12分 ※準備時間は実態に応じて変更できる。 	<p>・座席配置：</p>
---	---------------

6 ディベートの流れ（フローシート）

肯定側	否定側
1) 論題発表 2) 準備時間10分程度（各チームで作業）	
① New Argument（肯定側の理由）を1つ提示 【1分】	②・①に反論 ・ New Argument（否定側の理由）を1つ提示 【1分】
③・②にだけ反論 ・ New Argument（肯定側の理由）をもう1つ提示 【1分】	④・③にだけ反論 ・ New Argument（否定側の理由）をもう1つ提示 【1分】
⑤・④にだけ反論 ・ これまでに反論された事全てに対し立て直し 【1分】	⑥ これまでに反論された事全てに対し立て直し 【1分】
◇その他のルール ・各スピーチの準備時間は、参加者に合わせて設定する。【各1分程度】 ・各スピーチの制限時間は1分とする。 ・勝敗は、より納得のいく議論を出したチームをジャッジが判定する。 ◇"POI"(Point of Information)【話す（やり取り）】 ・スピーチ中は相手側からいつでも挙手（又はPointと言う）し、質問できる。 ・スピーカーは質問を受ける（Yes, please.）か、受けないか（No, thank you. / Later please.）を選択することができる。 ・質問を断られた場合は、15秒間程度空けてから再度質問できる。	

7 単位時間の指導と評価の計画

	学習活動・内容	教師の支援・指導上の留意点	分	学習形態	評価
導入	・挨拶 ・本時の目標・活動の提示	・教科書に関連したテーマを扱い、レッスンのまとめとしてのディベートであることを明確にする。	5	一斉	
展開1	◇ディベートの準備 ・ 論題の提示 ◇準備 1) 役割決め 2) プレインストーミング 3) サインポスの決定 4) スピーチの作成	・立場を明確にする。 ・時間の経過を知らせる。 ・様々な役割を経験するよう促す。 ・ Advantages、 Disadvantages を挙げるように促す。 ・表現が分からない場合は質問するように伝える。	17	グループ及び個人	・ Advantage や Disadvantage を考えることができる。 【言語や文化についての知識・理解】
展開2	◇ディベート ※フローシートの流れで実施	・フローシートで流れを確認するよう促す。 ・生徒のスピーチから良い点を見つけてメモする。	18	グループ及び個人	【外国語表現の能力】 ・自分の考えを即興で英語で表現できる。
展開3	◇ジャッジ ・ラウンドを振り返り、勝敗を決定する。 ・ジャッジの代表が結果と理由を発表する。	・フローシートを使って、どのポイントが勝敗の判定につながったかを確認して決定するよう促す。 ・肯定的なコメントをする。	8	グループ及び個人 一斉	
まとめ	・本時のまとめ ・リフレクション ・挨拶	・全体を振り返り、生徒のスピーチから良い点や次につながるポイントを伝える。 ・生徒からの感想や質問を引き出し、整理させる。	2	一斉	

8 論題の設定例

科目		論題例 ※生徒の関心や学習到達度に応じて、次のような論題を提示する。
論理・表現Ⅰ	関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について (直接的・具体的)	School uniform / Having a part time job / Going to cram school / Using a SNS site / Playing TV games / Online shopping / Living in a city / Having a pet / Fast food / Night owl / Using selfie-stick in Public / Outsource / Coaching of club activities / Housework robots
論理・表現Ⅱ	学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について	Exceptionally good students should be allowed to skip grades. / Marrying at older age is better than marrying young. / Japanese people should get the license to ride a bicycle. / Ambulance services should be charged. / Smoking should be banned in public places. / Sapporo should host the Winter Olympics in 2030. / Local government should stop holding coming-of-age ceremonies. / Japan should start the school year at September.
論理・表現Ⅲ	様々な社会的な話題について (間接的・抽象的)	Animal testing should be maintained. / GM foods should be promoted. / Nuclear power generation should be restored in Japan. / Gay marriage should be legalized / Mercy killing should be legalized. / Japan should accept more refugees. / Capital punishment should be abolished.

実践事例②

複数の領域を結び付けた統合的な言語活動に係る実践例 1

新学習指導要領における英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲにおいては、5つの領域別の言語活動及び複数の領域を効果的に関連付けた統合的な言語活動を通して、5つの領域を総合的に育成することを目標としている。教科書の英文を読み、その内容を踏まえ、英文を書く活動につなげる実践事例を紹介する。

◆ 「読むこと」と「書くこと」を統合的に育む取組について

【 町の移住を誘致するプレゼンテーション原稿の作成及びグループでのアイデアの共有 】

- ◇実施時期：仮定法を習得後
- ◇対象生徒：高校1年生
- ◇実施場所：普通教室
- ◇配当時間：3時間
- ◇内容：教科書で、ある町の外国人移住者の誘致に関する英文を読んだ後で、次の英文を提示し、生徒が町長（市長）になったつもりで、外国人に自分の町（市）へ移住してもらうためのプレゼンテーションの原稿を英語で作成する。

◇提示する英文：

Suppose you are a mayor of a town. It is a super aging town. So you are thinking of beginning a project that welcomes foreign people who will move from big cities. Please write a script of the presentation for foreign people you are targeting in about 100 words.

◇授業の流れ：

【事前準備】

前時までに学習した、発表や質疑応答において使用する可能性のある表現を確認させておく。「もし～ならば」という意味内容を含む表現を使う場面を設定することで、「仮定法過去」や「直接法のif節」の有用性を実感できるように指導する。

- ex) "If I were a mayor of a town, I would ..."
 "If you are parents of three children, you'll be attracted to our town."
 "If you need ~, ..." "If you like / want ~, ..."
 "Our town has ..."

文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、使用する場面と関連付ける。

【展開例】

外国人を町に移住させる取組をしている町の活動に関する英文を読み、内容を理解する。

教科書の本文に出てきた仮定法について説明し、活用場面を理解する。

提示された英文に対する自分のアイデアを英文で書く。

4人一組になり、外国人を誘致するプレゼンテーションを行う。

それぞれのプレゼンテーションに対し、質疑応答し、各発表の理解を深める。

各グループで最も魅力的な町を選び、選ばれたクラス全体に発表する。

クラスで最も移住してみたい町を投票により決める。



【グループ活動の様子】